



インストールおよび構成
DOORS Web Access

ご注意

本書をご使用になる前に、33ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Rational DOORS Web Access バージョン 1.2.0.0、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： Rational® DOORS Web Access
Installing and Configuring
DOORS Web Access

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2009.4

© Copyright International Business Machines Corporation 2007, 2009.

目次

第 1 章 IBM Rational DOORS Web

| | |
|--|----------|
| Access とは | 1 |
| ライセンス・オプションとは | 1 |
| Rational DOORS Web Access のコンポーネント | 1 |
| コンポーネントのインストールの準備 | 2 |

第 2 章 Windows でのコンポーネントのインストール

| | |
|---|---|
| Windows での Rational DOORS Database Server のインストール | 5 |
| Windows での Interoperation Server のインストール | 5 |
| Windows での Rational DOORS Web Access Broker のインストール | 5 |
| Windows での Rational DOORS Web Access Server のインストール | 5 |

第 3 章 Solaris でのコンポーネントのインストール

| | |
|---|---|
| Solaris での Interoperation Server のインストール | 7 |
| Solaris での Rational DOORS Database Server のインストール | 8 |
| Rational DOORS Web Access Server および Broker のインストール | 9 |

第 4 章 Linux でのコンポーネントのインストール

| | |
|---|----|
| Linux での Interoperation Server のインストール | 11 |
| Linux での Rational DOORS Database Server のインストール | 11 |
| Rational DOORS Web Access Server および Broker のインストール | 12 |

第 5 章 コンポーネントのセットアップ 15

| | |
|--|----|
| データベースの Universal Resource Name の識別 | 15 |
| Rational DOORS Web Access Server のセットアップ | 15 |
| festival.xml の例 | 16 |

| | |
|--|----|
| festival.xml の変更 | 17 |
| Rational DOORS Database Server のセットアップ | 17 |
| 便利な DCN コマンド | 18 |
| 複数の Interoperation Server の実行 | 18 |
| Rational DOORS Redirector Service の概要 | 19 |
| Redirector Service の構成 | 19 |

第 6 章 Rational DOORS Web Access の実行

| | |
|---|----|
| Windows でのシステムの始動 | 21 |
| Solaris または Linux でのシステムの始動 | 21 |
| Web クライアントへのアクセス | 22 |
| Windows でのシステムのシャットダウン | 23 |
| Solaris または Linux でのシステムのシャットダウン | 23 |
| Windows からの Rational DOORS Web Access のアンインストール | 23 |
| Solaris または Linux からの Rational DOORS Web Access のアンインストール | 24 |

第 7 章 Rational DOORS Web Access の構成

| | |
|---|----|
| Rational DOORS Web Access Server ポートの構成 | 25 |
| Rational DOORS Web Access Broker ポートの構成 | 25 |
| HTTPS の構成 | 26 |
| 機密保護 | 27 |

第 8 章 IBM Rational ソフトウェア・サポートへの連絡

| | |
|--|----|
| IBM Rational ソフトウェア・サポートに連絡するための前提条件 | 29 |
| 問題の処理依頼 | 29 |
| IBM Rational ソフトウェアに関するその他の情報 | 31 |

特記事項

索引

第 1 章 IBM Rational DOORS Web Access とは

IBM® Rational® DOORS® Web Access は、要件管理ツールのパッケージである IBM® Rational® DOORS 製品ファミリーのメンバーです。企業はこれらの要件管理ツールを使用して、プロジェクトを構想段階から完成に至るまで効率よく管理することができます。

Rational DOORS Web Access は、Rational DOORS Database 内のモジュールにアクセスできるようにする Web クライアントです。

ライセンス・オプションとは

Rational DOORS Web Access を実行するには、ソフトウェア・ライセンスかハードウェア・ライセンスが必要です。

ライセンスは各ユーザー・セッション用に取得されますが、クライアント・プロセス内でなくサーバー・サイドで管理されます。サーバーは、ユーザーが接続するときにライセンス・サーバーからライセンスを取得し、ユーザーがログオフするときにライセンスを放棄します。

したがって、ユーザーはどのようなファイアウォールがデプロイされていても、ファイアウォールを通じてライセンス・サーバーに直接アクセスする必要はありません。

ライセンスの詳細については、「IBM Rational Lifecycle Solutions ライセンス・ガイド」を参照してください。この資料は、IBM Rational Lifecycle Solutions DVD および Web サイト (<http://www.ibm.com/software/awdtools/doors/webaccess/support>) から入手できます。

Rational DOORS Web Access のコンポーネント

Rational DOORS Web Access をインストールするには、いくつかの個別のコンポーネントをインストールする必要があります。それらのコンポーネントは、IBM Rational によって提供されます。

表 1. Rational DOORS Web Access のコンポーネント

| コンポーネント | 説明 |
|----------------------------------|--|
| Rational DOORS Web Access Server | Apache Tomcat のアダプテーション。Tomcat は Java® サーブレットを実行するアプリケーション・サーバーで、Java™ Server Pages コードを含む Web ページをレンダリングします。 Rational DOORS Web Access にバンドルされたコンポーネントの 1 つとして IBM Rational が提供する、Tomcat の適応バージョンを実行する必要があります。 |

表 1. Rational DOORS Web Access のコンポーネント (続き)

| コンポーネント | 説明 |
|----------------------------------|---|
| Rational DOORS Web Access Broker | Apache ActiveMQ のアダプテーション。ActiveMQ はオープン・ソースのメッセージ・ブローカーで、Java Message Service (JMS) を実装します。 ブローカーは、IBM Rational によって、Rational DOORS Web Access にバンドルされたコンポーネントの 1 つとして提供されます。 |
| Rational DOORS Database Server | アクセスするデータは、Rational DOORS Database Server に保管されています。 |
| Interoperation Server | -interop コマンド行パラメーターを使用して実行される Rational DOORS クライアント。 |

さらに、IBM® Rational® License Server TL の Rational DOORS Web Access ライセンスにアクセスできることが必要です。

コンポーネントのインストールの準備

コンポーネントのインストールを開始する前に必要な作業についての情報。

1. Rational DOORS Web Access をインストールして実行するためのシステム要件を満たしていることを確認します。システム要件については、<http://www.ibm.com/software/awdtools/doors/webaccess/support/>を参照してください。
2. 他のすべてのアプリケーションをシャットダウンします。
3. 必要なファイルを、IBM Rational サポート・サイト (<http://www.ibm.com/software/awdtools/doors/webaccess/support/>) から適切なマシンにダウンロードします。コンポーネントの詳細については、1 ページの『Rational DOORS Web Access のコンポーネント』を参照してください。以下の表に、プラットフォームごとに、ダウンロードする必要があるファイルを示します。

| プラットフォーム | ファイル | 説明 |
|----------|------------------------|---|
| Windows® | dwa.zip | 内容: <ul style="list-style-type: none"> • Rational DOORS Web Access Server • Rational DOORS Web Access Broker • Rational DOORS Web Access 用の IBM JRE。ほかの外部 JDK/JRE は必要ありません。 |
| | Rational_DOORS_9_2.msi | これは Rational DOORS クライアントで、Rational DOORS Web Access の Interoperation Server として機能します。 |

| プラットフォーム | ファイル | 説明 |
|----------|------------------|---|
| Solaris® | dwa.zip | 内容: <ul style="list-style-type: none"> • Rational DOORS Web Access Server • Rational DOORS Web Access Broker • Rational DOORS Web Access 用の IBM JRE。ほかの外部 JDK/JRE は必要ありません。 |
| | solaris.zip | Interoperation Server インストーラーおよび Rational DOORS Database Server インストーラーが入っています。 |
| Linux® | dwa.zip | 内容: <ul style="list-style-type: none"> • Rational DOORS Web Access Server • Rational DOORS Web Access Broker • Rational DOORS Web Access 用の IBM JRE。ほかの外部 JDK/JRE は必要ありません。 |
| | linux.zip | Interoperation Server のインストーラーが入っています。 |
| | linux_server.zip | Rational DOORS Database Server のインストーラーが入っています。 |

4. Rational DOORS Web Access に対する有効なライセンスがあることを確認します。ライセンスおよび IBM Rational License Server TL の詳細については、「*IBM Rational Lifecycle Solutions ライセンス・ガイド*」を参照してください。この資料は、*IBM Rational Lifecycle Solutions DVD* および弊社の Web サイト (<http://www.ibm.com/software/rational/support/>) から入手できます。
5. Windows では、旧バージョンからアップグレードする場合は、コンポーネントをシャットダウンしてから、先に進んでください。そのためには、該当するバージョンでの説明に従ってください。

第 2 章 Windows でのコンポーネントのインストール

Rational DOORS Web Access を実行するには、いくつかのコンポーネントをインストールする必要があります。コンポーネントを Windows にインストールするには、以下のトピックの説明に従ってください。

Windows での Rational DOORS Database Server のインストール

Rational DOORS Web Access を Windows システムで実行するには、Rational DOORS Database Server をインストールする必要があります。

1. データベース・サーバーを実行したいマシンを選択します。
2. 通常どおり、Rational DOORS Database Server インストーラーを実行します。データベース・サーバーのインストールについては、「*IBM Rational DOORS インストール・ガイド*」を参照してください。
3. ソフトウェアをインストールします。デフォルト・ポートは 36677 です。この後の手順で使用できるよう、選択したポート番号と、サーバーの名前をメモしておいてください。

Windows での Interoperation Server のインストール

Rational DOORS Web Access を Windows システムで実行するには、Interoperation Server をインストールする必要があります。

1. Interoperation Server を実行したいマシンを選択します。
2. Rational_DOORS_9_2.msi ファイルを実行して、Interoperation Server をインストールします。以前にインストールした Rational DOORS Database Server に関する詳細を入力するようにしてください。インストール手順は、通常の Rational DOORS クライアントのインストールと同じです。クライアントのインストールについては、「*IBM Rational DOORS インストール・ガイド*」を参照してください。

Windows での Rational DOORS Web Access Broker のインストール

Rational DOORS Web Access を Windows システムで実行するには、Rational DOORS Web Access Broker をインストールする必要があります。

1. ブローカーを実行したいマシンを選択します。
2. ブローカー・コンポーネントは、dwa.zip に入っています。ブローカーをどのディレクトリーにインストールするかを決め、ファイルを unzip してください。

Windows での Rational DOORS Web Access Server のインストール

Rational DOORS Web Access を Windows システムで実行するには、Rational DOORS Web Access Server をインストールする必要があります。

1. サーバーを実行したいマシンを選択します。

2. サーバー・コンポーネントは、dwa.zip に入っています。サーバーをどのディレクトリーにインストールするかを決め、ファイルを unzip してください。

次のタスク

15 ページの『第 5 章 コンポーネントのセットアップ』の説明に従ってください。

第 3 章 Solaris でのコンポーネントのインストール

Rational DOORS Web Access を実行するには、いくつかのコンポーネントをインストールする必要があります。コンポーネントを Solaris にインストールするには、以下のトピックの説明に従ってください。

Solaris での Interoperation Server のインストール

Rational DOORS Web Access を Solaris システムで実行するには、Interoperation Server をインストールする必要があります。

始める前に

Interoperation Server を実行したいマシンに solaris.zip をコピーし、root としてログインします。

1. インストールのホーム・ディレクトリーを作成します。
2. Interoperation Server ファイルを所有する非特権アカウントを作成します。これをユーザー doors と呼ぶこともできます。
3. solaris.zip が入っているディレクトリーまでナビゲートし、unzip します (unzip solaris.zip)。
4. インストーラーが入っているディレクトリーまでナビゲートします (cd unix/bin)。
5. インストーラーを実行します (./instdoor.sh)。このファイルは、Interoperation Server と Rational DOORS Database Server の両方をインストールするために使用します。

注: Interoperation Server とデータベース・サーバーを同じマシンにインストールする場合は、それらを同時にインストールできます。下記のステップ b で、Interoperation Server とデータベース・サーバーのインストールに同意してください。

6. 画面のプロンプトに応答します。
 - a. CD-ROM デバイスまたは DOORS ディストリビューションへのパスを入力します。
 - b. Interoperation Server のインストールに同意します。
 - c. ステップ 1 で作成した DOORS ホーム・ディレクトリーへのパスを入力します。
 - d. インターフェース・サービスをインストールしないことを確認します。
 - e. ステップ 2 でセットアップしたユーザーの名前を入力します。
 - f. インストールのタイプを確認します。「**共通 (Common)**」インストールと「**Solaris**」インストールの両方を選択します。
7. その後、インストール・スクリプトはすべてのインストール・オプションを確認し、ファイルをインストールします。

8. インストールが終了したら、**ENTER** を押します。 Interoperation Server ファイルを所有するために作成したアカウント・プロファイルに対して必要な更新が、出力に表示されます。 データベース・サーバーをインストールしてある場合は、『*Rational DOORS Database Server のインストール*』タスクをスキップできません。

Solaris での Rational DOORS Database Server のインストール

Rational DOORS Web Access を Solaris システムで実行するには、Rational DOORS Database Server をインストールする必要があります。

始める前に

Rational DOORS Database Server を実行したいマシンに solaris.zip をコピーし、root としてログインします。

このタスクについて

Interoperation Server のインストールの一環としてデータベース・サーバーをインストールした場合、このタスクを実行する必要はありません。

1. インストールのホーム・ディレクトリーを作成します。
2. solaris.zip が入っているディレクトリーまでナビゲートし、unzip します (unzip solaris.zip)。
3. インストーラーが入っているディレクトリーまでナビゲートします (cd unix/bin)。
4. インストーラーを実行します (./instdoor.sh)。このファイルは、Interoperation Server と DOORS Database Server の両方をインストールするために使用します。
5. 画面のプロンプトに応答します。
 - a. CD-ROM デバイスまたは Rational DOORS ディストリビューションへのパスを入力します。
 - b. Interoperation Server のインストールに同意しないで、データベース・サーバーのインストールに同意します。
 - c. ステップ 1 で作成したホーム・ディレクトリーへのパスを入力します。
 - d. インターフェース・サービスをインストールしないことを確認します。
 - e. Interoperation Server インストール手順のステップ 2 でセットアップした所有者の名前を入力します。
 - f. インストールのタイプを確認します。Solaris インストールを選択します。
6. その後、インストール・スクリプトはすべてのインストール・オプションを確認し、ファイルをインストールします。
7. インストールが終了したら、**ENTER** を押します。 Interoperation Server ファイルを所有するために作成したアカウント・プロファイルに対して必要な更新が、出力に表示されます。

注: データベース・サーバーと Interoperation Server のインストール・ディレクトリーが異なる場合は、必要なプロファイルの更新が競合します。代わりに、シェル・スクリプトを使用して、プロセスを開始することができます。

Rational DOORS Web Access Server および Broker のインストール

Rational DOORS Web Access を実行するには、Rational DOORS Web Access Server と Rational DOORS Web Access Broker をインストールする必要があります。

始める前に

ダウンロードした `dwa.zip` ファイルを、Rational DOORS Web Access Server および Broker をインストールしたいマシン (単数または複数) にコピーします。サーバーとブローカーを異なるマシンにインストールしたい場合は、各マシンで以下の手順を繰り返します。

1. どのディレクトリーにインストールするかを決め、`dwa.zip` を `unzip` してインストールします。
2. ディレクトリー構造内のファイルに対して適切な許可を設定し、`configure-festival.sh` スクリプトを実行して JRE をインストールします。
 - a. `dwa` ディレクトリーまでナビゲートします。
 - b. スクリプトを実行します: `bash configure-festival.sh`

注: スクリプトは JRE をインストールしていることを報告します。これは現行ディレクトリーにローカルであり、システム上の他の Java インストールには影響を及ぼしません。

次のタスク

15 ページの『第 5 章 コンポーネントのセットアップ』の説明に従ってください。

第 4 章 Linux でのコンポーネントのインストール

Rational DOORS Web Access を実行するには、いくつかのコンポーネントをインストールする必要があります。コンポーネントを Linux にインストールするには、以下のトピックの説明に従ってください。

Linux での Interoperation Server のインストール

Rational DOORS Web Access を Linux システムで実行するには、Interoperation Server をインストールする必要があります。

始める前に

Interoperation Server を実行したいマシンに linux.zip をコピーし、root としてログインします。

1. インストールのホーム・ディレクトリーを作成します。
2. Interoperation Server ファイルを所有する非特権アカウントを作成します。これをユーザー doors と呼ぶこともできます。
3. linux.zip が入っているディレクトリーまでナビゲートし、unzip します (unzip linux.zip)。
4. インストーラーが入っているディレクトリーまでナビゲートします (cd unix/bin)。
5. インストーラーを実行します (./instdoor.sh)。
6. 画面のプロンプトに応答します。
 - a. CD-ROM デバイスまたは Rational DOORS ディストリビューションへのパスを入力します。
 - b. Interoperation Server のインストールに同意します。
 - c. ステップ 1 で作成したホーム・ディレクトリーへのパスを入力します。
 - d. インターフェース・サービスをインストールしないことを確認します。
 - e. ステップ 2 でセットアップしたユーザーの名前を入力します。
 - f. インストールのタイプを確認します。「共通 (Common)」インストールと「Linux」インストールの両方を選択します。
7. その後、インストール・スクリプトはすべてのインストール・オプションを確認し、ファイルをインストールします。
8. インストールが終了したら、**ENTER** を押します。Interoperation Server ファイルを所有するために作成したアカウント・プロファイルに対して必要な更新が、出力に表示されます。

Linux での Rational DOORS Database Server のインストール

Rational DOORS Web Access を Linux システムで実行するには、Rational DOORS Database Server をインストールする必要があります。

始める前に

Rational DOORS Database Server を実行したいマシンに `linux_server.zip` をコピーし、`root` としてログインします。

1. インストールのホーム・ディレクトリーを作成します。
2. `linux_server.zip` が入っているディレクトリーまでナビゲートし、`unzip` します (`unzip linux_server.zip`)。
3. インストーラーが入っているディレクトリーまでナビゲートします (`cd unix/bin`)。
4. インストーラーを実行します (`./instdoor.sh`)。
5. 画面のプロンプトに応答します。
 - a. CD-ROM デバイスまたは Rational DOORS ディストリビューションへのパスを入力します。
 - b. データベース・サーバーのインストールに同意します。
 - c. ステップ 1 で作成したホーム・ディレクトリーへのパスを入力します。
 - d. インターフェース・サービスをインストールしないことを確認します。
 - e. Interoperation Server インストール手順のステップ 2 でセットアップしたユーザーの名前を入力します。
 - f. インストールのタイプを確認します。「Linux」インストールを選択します。
6. その後、インストール・スクリプトはすべてのインストール・オプションを確認し、ファイルをインストールします。
7. インストールが終了したら、**ENTER** を押します。Interoperation Server ファイルを所有するために作成したアカウント・プロファイルに対して必要な更新が、出力に表示されます。

注: データベース・サーバーと Interoperation Server のインストール・ディレクトリーが異なる場合は、必要なプロファイルの更新が競合します。代わりに、シェル・スクリプトを使用して、プロセスを開始することができます。

Rational DOORS Web Access Server および Broker のインストール

Rational DOORS Web Access を実行するには、Rational DOORS Web Access Server と Rational DOORS Web Access Broker をインストールする必要があります。

始める前に

ダウンロードした `dwa.zip` ファイルを、Rational DOORS Web Access Server および Broker をインストールしたいマシン (単数または複数) にコピーします。サーバーとブローカーを異なるマシンにインストールしたい場合は、各マシンで以下の手順を繰り返します。

1. どのディレクトリーにインストールするかを決め、`dwa.zip` を `unzip` してインストールします。
2. ディレクトリー構造内のファイルに対して適切な許可を設定し、`configure-festival.sh` スクリプトを実行して JRE をインストールします。
 - a. `dwa` ディレクトリーまでナビゲートします。
 - b. スクリプトを実行します: `bash configure-festival.sh`

注: スクリプトは JRE をインストールしていることを報告します。これは現行ディレクトリーにローカルであり、システム上の他の Java インストールには影響を及ぼしません。

次のタスク

15 ページの『第 5 章 コンポーネントのセットアップ』の説明に従ってください。

第 5 章 コンポーネントのセットアップ

さまざまなコンポーネントをインストールした後、それらが互いに正しく通信できるようにする必要があります。

以下のようにセットアップする必要があります。

- Rational DOORS Web Access サーバーがブローカー、ライセンス・サーバー、および適切な Rational DOORS データベース・リポジトリと通信する
- Rational DOORS Database Server がブローカーと通信する

ブローカーは、他のコンポーネントの位置を知る必要はありません。

必要に応じて、以下のコンポーネントをセットアップすることもできます。

- Rational DOORS Redirector Service
- 複数の Interoperation Server

データベースの Universal Resource Name の識別

Rational DOORS Web Access を始動した後、データベースの Universal Resource Name (URN) が使用されます。この時点でその URN を見つけ、後で使用できるようにメモしておく必要があります。

1. まだ Rational DOORS Database Server を実行していない場合は、始動します。
2. Rational DOORS クライアントを始動し、データベースにログオンします。
3. Rational DOORS Explorer またはモジュール・ウィンドウで、「ツール」>「DXL の編集」をクリックします。
4. 次の DXL スクリプトを DXL 入力ペインに入力します。

```
print getDatabaseIdentifier()
```

5. 「実行」をクリックして、プログラムを実行します。16 桁の 16 進数が、例えば、38f5c98719f27b6d のように出力されます。これはデータベースの URN の一部です。この例では、データベースの URN は urn:telelogic:ers-38f5c98719f27b6d: です。
6. 後で使用できるよう、これをメモしてください。

Rational DOORS Web Access Server のセットアップ

Rational DOORS Web Access Server を、ブローカー、ライセンス・サーバー、および適切な Rational DOORS データベース・リポジトリと通信するようにセットアップする必要があります。

Rational DOORS Web Access Server は、serverfestival ディレクトリーを使用して構成します。festival ディレクトリーには、以下の 2 つのサブディレクトリーが含まれています。

- config

このディレクトリーには、Rational DOORS Web Access 内のコア構成ファイルである festival.xml が含まれています。festival.xml ファイルには以下の特徴があります。

- Rational DOORS Web Access Server がブローカーおよびライセンス・サーバーと通信するように、このファイルを構成できます。
- リポジトリーの URN を含みます。これは、15 ページの『データベースの Universal Resource Name の識別』で識別した URN または TDS リポジトリー ID に一致する必要があります。

注: config ディレクトリーには、IBM Rational サポートのガイダンスを受けた場合以外に変更してはならない、その他のファイルが含まれています。

- custom

このディレクトリーには、ウェルカム画面の構成に使用できる readme.htm というファイルが入ったサブディレクトリーが含まれています。

festival.xml の例

festival.xml ファイルは、Rational DOORS Web Access 内のコア構成ファイルです。

```
<!--Brokers we know about -->
<f:endpoints>
  <f:broker
    name="GENERALSERVICES"
    url="tcp://127.0.0.1:61616?wireFormat.tcpNoDelayEnabled=true"
    username=""
    password="" />

  <f:broker
    name="DCSERVICES"
    url="tcp://127.0.0.1:61616?wireFormat.tcpNoDelayEnabled=true"
    username=""
    password="" />

  <f:broker
    name="RMSERVICES"
    url="tcp://127.0.0.1:61616?wireFormat.tcpNoDelayEnabled=true"
    username=""
    password="" />
</f:endpoints>

<!-- Mapping from Repository IDs to the broker we use to reach the repository -->
<f:mappings>
  <f:repository-mapping
    enabled="true"
    endpoint="RMSERVICES"
    name="DOORS ERS Repository"
    repositoryUrn="urn:telelogic:ers-46dd5d7806b96973:" />
</f:mappings>

<!-- Configurable system properties -->
<f:properties>
  <f:property name="licence.server.location" value="19353@localhost" />
</f:properties>

</f:lsc>
</f:configuration>
```

festival.xml の変更

festival.xml ファイルは、Rational DOORS Web Access 内のコア構成ファイルです。f:broker、f:repository-mapping、および f:properties の項目を変更する必要があります。

1. 例には、ブローカーの場所を記述した 3 つの f:broker 項目があります。これらの項目を編集し、デフォルトのポート (61616) を使用してブローカーをインストールしたマシンの URL を指し示してください。ブローカーが Rational DOORS Web Access Server と同じマシン上に存在する場合、これらの項目を編集する必要はありません。
2. f:repository-mapping 項目は、リポジトリの URN を定義します。
 - a. name 属性は、Rational DOORS Web Access のログオン・ページに表示される名前です。この属性は、変更できます。デフォルトは DOORS ERS Repository です。
 - b. repositoryUrn 属性は、15 ページの『データベースの Universal Resource Name の識別』で識別した Rational DOORS Database Server の URN に一致する必要があります。この属性は、変更する必要があります。
3. f:properties 項目は、ライセンス・サーバーの場所を定義します。property name 属性は、値が 19353@localhost の licence.server.location で、この値はライセンス・サーバーのポート番号とマシン名です。これは、使用するライセンス・サーバーの場所を指すように編集してください。この場所は、システムに保持されるライセンスの場所のリストに追加されます。

Rational DOORS Database Server のセットアップ

Rational DOORS Database Server を、ブローカーと通信するようにセットアップする必要があります。

コマンド行に Data Change Notification (DCN) のパラメーターを追加することにより、通信をセットアップします。DCN は、Rational DOORS データに加えられた変更に関する情報を含んでいるメッセージです。

データベース・サーバーをセットアップするには、dbadmin を実行する必要があります。

- Windows システムでは、これは Rational DOORS クライアント・マシン上の DOORS_9_2\bin ディレクトリーに置かれています。
- Solaris および Linux システムでは、これは \$DOORSHOME/bin ディレクトリーに置かれています。

dbadmin を、以下のフォーマットのコマンド行で実行します。

```
dbadmin -data port@myserver -dcnEnable -dcnBrokerUri  
"tcp://myBroker:61616" -dcnChannelName "dcn"
```

表 2. Rational DOORS Database Server のコマンド行でのセットアップで使用するパラメーター

| パラメーター | 説明 |
|---|---|
| <code>-data port@myserver</code> | Rational DOORS Database Server を識別します。ここで、 <code>port</code> はこのデータベース・サーバーが使用するポート番号で、 <code>myserver</code> はこのデータベース・サーバーがインストールされているマシンの名前です。 |
| <code>-dcnEnable</code> | DCN を使用可能にします。 |
| <code>-dcnBrokerUri "tcp://myBroker:61616"</code> | ブローカーの位置を指定します。ここで、 <code>myBroker</code> はこのブローカーのホストであるマシンで、 <code>61616</code> はこのブローカーが使用するデフォルト・ポートです。 |
| <code>-dcnChannelName "dcn"</code> | DCN チャンネルをセットアップします。チャンネル名は常に <code>dcn</code> です。 |

注: これを有効にするには、Rational DOORS Database Server を再始動する必要があります。

便利な DCN コマンド

以下のコマンドを使用して、DCN サービスの状況の確認と、サービスのオン/オフを行います。

- DCN サービスの状況は、次のように `-dcnInfo` パラメーターを使用して確認できます。

```
dbadmin -data 36677@myserver -dcnInfo
```

- DCN サービスをオフにするには `-dcnDisable` を使用し、オンにするには `-dcnEnable` を使用します。

```
dbadmin -data 36677@myserver -dcnDisable
dbadmin -data 36677@myserver -dcnEnable
```

これらを有効にするには、Rational DOORS Database Server を再始動する必要があります。

複数の Interoperation Server の実行

複数の Interoperation Server を実行できるようにシステムをセットアップすると、システムのパフォーマンスが向上し、可用性が増します。

パフォーマンスが向上する理由は、より多くのモジュールをキャッシュに入れることができ、データへのアクセスをより高速にできるからです。Rational DOORS Web Access は、複数の Interoperation Server にまたがって基本的なロード・バランシングを行うルーティング・ロジックを備えています。

可用性が増す理由は、いずれか 1 つの Interoperation Server に障害が起きても、システムを続行できるからです。1 つの Interoperation Server がダウンしている間も、ユーザーは他の Interoperation Server を使用してデータベースにアクセスを続行できます。

複数の Interoperation Servers の実行は、簡単にできます。単に Interoperation Server の複数のインスタンスを始動するだけです。

すべての Interoperation Server には、以下のことが必要です。

- 同じ Rational DOORS Web Access Broker に接続する
- 同じ Rational DOORS Database Server を使用する

各 Interoperation Server は、異なるマシン上にあってもかまいません。詳細については、『システムの始動』のステップ 3 を参照してください。

Rational DOORS Redirector Service の概要

Rational DOORS Redirector Service は、DOORS URL を標準の Rational DOORS クライアントで開くか、それとも Web クライアントで開くかをユーザーが選択できるようにする、オプションのサービスです。Redirector Service を構成しなかった場合、DOORS URL は標準のクライアントで開かれます。

Rational DOORS データベース、およびデータベース内の各プロジェクト、フォルダー、モジュール、モジュール・ベースライン、およびオブジェクトは固有 ID を持ち、それは URL として表現されます。この URL は `doors://` で始まります。DOORS URL は、Web ページに挿入したり、お気に入りまたはブックマークとしてブラウザに保管したり、E メールに組み込んだり、単に他のアプリケーションに貼り付けたりすることができます。

Rational DOORS Web Access ユーザーが Rational DOORS ユーザーと同じように DOORS URL を使用できるようにしたい場合は、Redirector Service と Rational DOORS Database Server を構成する必要があります。その後、ユーザーは DOORS URL を標準のクライアントで開くか、それとも Web クライアントで開くかを指定でき、Redirector Service は選択されたツールで自動的に URL を開きます。

Redirector Service は Rational DOORS Web Access Server と一緒にインストールされ、Web サーバーおよびポートを Rational DOORS Web Access と共有しますが、Rational DOORS Web Access とは別個に構成できます。

Redirector Service の構成

Rational DOORS Redirector Service、Rational DOORS Web Access Server、および Rational DOORS Database Server を構成する必要があります。

1. `dwa.zip` を解凍したディレクトリーまでナビゲートします。
2. テキスト・エディターで、`server\festival\config\doorsRedirector.properties` を開きます。
3. Rational DOORS Web Access にサービスを提供しているデータベース・サーバーに合わせて、`doors.url.prefix` 値を `doors://host:port/` の形で設定します。ここで、*host* は Rational DOORS Database Server マシンの名前、*port* は使用するポート番号 (通常は 36677) です。

重要: この値の末尾にある `/` を削除しないでください。

4. Rational DOORS Web Access Server に合わせて、`dwa.url.prefix` 値を `http://host:port/dwa/` の形で設定します。ここで、`host` は Rational DOORS Web Access Server マシンの名前で、`port` は使用するポート番号 (通常は 8080) です。

重要: この値の末尾にある `/` を削除しないでください。

5. ファイルを保存して閉じます。
6. テキスト・エディターで、`server¥festival¥config¥festival.xml` を開きます。
7. `<f:property name="published.url.prefix"` で始まる行を見つけます。
8. `MYHOSTNAME` を Redirector Service がインストールされているマシンの名前に変更し、ファイルを保存して閉じます。

重要: この値の末尾にある `/` を削除しないでください。

9. `doorsd` を始動し、生成された URL が Redirector Service を参照するように Rational DOORS Database Server を構成します。データベース・サーバーのインストール済み環境の `bin` ディレクトリーで、以下のコマンドを実行します。

```
dbadmin -data port@host -urlPrefix http://yourwaserver:port/doors/redirector
```

ここで、`yourwaserver` は Rational DOORS Web Access サーバー・マシンの名前で、`port` は使用するポート番号 (通常は 8080) です。

10. Rational DOORS Web Access のコンポーネントを再始動します。

第 6 章 Rational DOORS Web Access の実行

この章では、システムの始動と停止およびコンポーネントのアンインストールについて説明します。

Windows でのシステムの始動

システムを始動するには、以下に示す順序でプロセスを開始する必要があります。

1. `broker.start.bat` を実行して、ブローカーを始動します。このファイルは、ブローカーのホストであるマシン上の `dwa.zip` を解凍したディレクトリーに入っています。
2. データベースのホストであるマシン上で、Rational DOORS Database Server をサービスとして始動します。
3. 次のフォーマットのコマンド行属性を使用して、Interoperation Server をそのホストであるマシン上で実行します。

```
doors.exe -interop -data port@myserver -brokerHost myBroker -brokerPort brokerport
```

ここで

- `port` は Rational DOORS Database Server が使用するポート番号で、`myserver` は Rational DOORS Database Server がインストールされているマシンの名前です。
 - `myBroker` はブローカーのホストであるマシンの名前です。
 - `brokerport` はブローカーが使用するポートで、デフォルトでは 61616 です。
4. `server.start.bat` を実行して、Rational DOORS Web Access Server を始動します。このファイルは、サーバーのホストであるマシン上の `dwa.zip` を解凍したディレクトリーに入っています。初めて実行するときは、いくつかのファイルを解凍する必要がありますので、始動が遅くなる場合があります。

タスクの結果

- 1、3、および 4 を実行すると、各プロセスの「DOS ボックス」コンソールが表示されます。これらのウィンドウを閉じないでください。

Solaris または Linux でのシステムの始動

システムを始動するには、以下に示す順序でプロセスを開始する必要があります。

1. Rational DOORS ファイルを所有するユーザーとしてログインします。これは、Interoperation Server のインストール時に作成したユーザーです。
2. ブローカーのホストであるマシンの `dwa` ディレクトリーにある `broker.start.sh` を実行して、ブローカーを始動します。
3. Rational DOORS Database Server のホストであるマシン上に、以下の環境変数を設定します。

```
DOORSHOME=doors-home-path
SERVERDATA=path_to_data_directory
PATH=$DOORSHOME/bin:$PATH
PORTNUMBER=database-server-port-number
export DOORSHOME SERVERDATA PATH PORTNUMBER DOORSDATA
```

注: この DOORSHOME 変数は、Rational DOORS Database Server のインストール場所に関するものです。

4. Rational DOORS Database Server を始動します。
 - a. DOORS ファイルを所有するユーザーとしてログオンします。
 - b. 作業ディレクトリーを \$DOORSHOME/bin に変更します。
 - c. 次のコマンドを入力します。./doorsd &
5. Interoperation Server のホストであるマシン上に、以下の環境変数を設定します。

```
DOORSHOME=doors-home-path
DOORSDATA=36677@myserver
PATH=$DOORSHOME/bin:$PATH
export DOORSHOME PATH DOORSDATA
```

注: データベース・サーバーと Interoperation Server のインストール・ディレクトリーが異なる場合は、必要なプロファイルの更新が競合します。この DOORSHOME 変数は、Interoperation Server のインストール場所に関するものです。これは、ステップ 3 で使用した DOORSHOME 変数と異なっていてもかまいません。

6. \$DOORSHOME/bin までナビゲートし、次のフォーマットのコマンド行属性を使用して、Interoperation Server を実行します。

```
./doors9 -interop -data port@myserver -brokerHost
myBroker -brokerPort brokerport &
```

ここで

- *port* は Rational DOORS Database Server が使用するポート番号で、*myserver* は Rational DOORS Database Server がインストールされているマシンの名前です。
 - *myBroker* はブローカーのホストであるマシンの名前です。
 - *brokerport* はブローカーが使用するポートで、デフォルトでは 61616 です。
7. サーバーのホストであるマシンの *dwa* ディレクトリーにある *server.start.sh* を実行して、Rational DOORS Web Access Server を始動します。

Web クライアントへのアクセス

システムを始動した後、Web ブラウザーを使用して、Rational DOORS データベースのデータにアクセスできます。

1. システムの始動手順に従って、Rational DOORS Web Access Server がエラーなしに始動したことを確認してください。
2. ブラウザーで、Rational DOORS Web Access Server を指す URL を入力します。例えば、`http://servername:8080/dwa` と入力します。Web クライアントが開き、ウェルカム画面が表示されます。
3. ユーザー名 およびパスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。Rational DOORS データベースに接続されます。

4. 終了したら、「ログアウト」をクリックします。 ウェルカム画面が表示されま
す。

Windows でのシステムのシャットダウン

システムをシャットダウンするには、以下の各プロセスを停止する必要があります。

1. `server.shutdown.bat` を実行して、Rational DOORS Web Access Server を停止しま
す。このファイルは、サーバーのホストであるマシン上の `dwa.zip` を解凍したデ
ィレクトリーに入っています。 プロセスが終了するまでに少し時間がかかる場
合があり (15 から 30 秒)、シャットダウンの実行中に、いくつかのソケットの
警告が報告されることもあります。
2. Windows の「ウィンドウを閉じる」オプションを使用して、Interoperation Server
を停止します。
3. Windows の「コントロール パネル」を使用して、Rational DOORS Database
Server サービスを停止します。
4. `broker.shutdown.bat` を実行して、ブローカーを停止します。このファイルは、ブ
ローカーのホストであるマシン上の `dwa.zip` を解凍したディレクトリーに入っ
ています。 プロセスが終了するまでに少し時間がかかる場合があります (15 から 30
秒)、シャットダウンの実行中に、いくつかのソケットの警告が報告されること
もあります。

Solaris または Linux でのシステムのシャットダウン

システムをシャットダウンするには、以下の各プロセスを停止する必要があります。

1. `server.shutdown.sh` スクリプトを実行して、Rational DOORS Web Access Server
を停止します。このスクリプトは、`dwa` ディレクトリーにあります。 プロセス
が終了するまでに少し時間がかかる場合があります (15 から 30 秒)、シャットダウ
ンの実行中に、いくつかのソケットの警告が報告されることもあります。
2. プロセスを強制終了して、Interoperation Server を停止します。
3. `$DOORSHOME/bin` から次のコマンドを使用して、Rational DOORS Database
Server を停止します。

```
dbadmin -data port@computer -killserver [-password password]
```
4. `dwa` ディレクトリー内の `broker.shutdown.sh` スクリプトを実行して、ブローカー
を停止します。 プロセスが終了するまでに少し時間がかかる場合があります (15 か
ら 30 秒)、シャットダウンの実行中に、いくつかのソケットの警告が報告され
ることもあります。

Windows からの Rational DOORS Web Access のアンインストール

システムから Rational DOORS Web Access をアンインストールするには、以下の
手順に従います。

- Rational DOORS Web Access Server をアンインストールするには、`dwa` ディレ
クトリーを削除します。
- ブローカーをアンインストールするには、`dwa` ディレクトリーを削除します。

- Interoperation Server および Rational DOORS Database Server をアンインストールするには、「プログラムの追加と削除」を使用します。

注: 現在、Interoperation Server プログラムは IBM Rational DOORS 9.2 と呼ばれています。

Solaris または Linux からの Rational DOORS Web Access のアンインストール

システムから Rational DOORS Web Access をアンインストールするには、以下の手順に従います。

- Rational DOORS Web Access Server およびブローカーをアンインストールするには、dwa ディレクトリーを削除します。
- Interoperation Server および Rational DOORS Database Server をアンインストールするには、\$DOORSHOME を削除します。

第 7 章 Rational DOORS Web Access の構成

Rational DOORS Web Access Server および Broker のポートおよび HTTPS を構成することができます。

Rational DOORS Web Access Server ポートの構成

conf サブディレクトリーにある server.xml ファイルを編集することにより、サーバーを構成できます。

1. server.xml ファイルを開きます。
2. 次の行までナビゲートします。

```
<!-- Define a non-SSL HTTP/1.1 Connector on port 8080 -->
```

3. 次の行のポート番号を変更します。

```
<Connector port="8080"
```

これは、サーバーが HTTP 要求を listen するポートです。

変更を加えた後、ファイルを保存し、サーバーを再始動してください。

注: server.xml ファイルを変更するときは、注意してください。誤って編集すると、システムの機能が完全に失われる可能性があります。編集する前に、ファイルのバックアップを作成してください。

Rational DOORS Web Access Broker ポートの構成

ブローカーを構成するには、ブローカーのホストであるマシンの conf サブディレクトリーにある activemq.xml ファイルと、Rational DOORS Web Access Server のホストであるマシンにある festival.xml ファイルを編集します。

activemq.xml ファイルに、<transportConnectors> 用の項目と、その直後に複数の <transportConnect .. エレメントがあります。そのそれぞれが、ブローカーが listen するプロトコルとポートを定義しています。

activemq.xml を開き、openwire エレメント内の URI 属性を変更してください。これはデフォルトでポート 61616 になります。

```
<transportConnector name="openwire" uri="tcp://localhost:61616"/>
```

これらの変更が完了したら、activemq.xml ファイルを保存します。

最後に、Rational DOORS Web Access Server のホストであるマシンで festival.xml ファイルを開き、3 つのブローカー・ポート (次の例では太字) を変更します。

```
<!-- Brokers we know about -->
  <f:endpoints>
    <f:broker
      name="GENERSERVICES"
      url="tcp://127.0.0.1:61616?wireFormat.tcpNoDelayEnabled=true"
      username=""
      password="" />
```

```

<f:broker
  name="DCSERVICES"
  url="tcp://127.0.0.1:61616?wireFormat.tcpNoDelayEnabled=true"
  username=""
  password="" />

<f:broker
  name="RMSERVICES"
  url="tcp://127.0.0.1:61616?wireFormat.tcpNoDelayEnabled=true"
  username=""
  password="" />
</f:endpoints>

```

これらの変更を行った後、festival.xml ファイルを保存し、すべてのコンポーネントを再始動します。

注: activemq.xml ファイルおよび festival.xml ファイルを変更するときは、注意してください。誤って編集すると、システムの機能が完全に失われる可能性があります。編集する前に、ファイルのバックアップを作成してください。

HTTPS の構成

Rational DOORS Web Access では、Web ブラウザーと Rational DOORS Web Access Server の間で HTTPS 通信を使用できます。

HTTPS を構成するには、証明書が必要です。証明書は、テストの目的で手動で作成するか、信頼できる認証局から購入できます。

また、サーバー証明書が入っている鍵ストアも必要です。鍵ストアは、Sun Web サイトに説明があるように、標準の Java keytool ファシリティーを使用して作成および管理できます。

HTTPS を許可するには、新しいコネクタを定義する必要があります。これは、サーバーの conf サブディレクトリーにある server.xml ファイル内の Connector エlement に定義されます。

ファイルを開き、太字の変更を加えてください。

```

<!-- Delete this line from the file
<Connector port="8443" maxHttpHeaderSize="8192"
maxThreads="150" inSpareThreads="25"
MaxSpareThreads="75" enableLookups="false"
disableUploadTimeout="true" acceptCount="100"
scheme="https" secure="true" clientAuth="false" sslProtocol="TLS"
keystoreFile="c:\dwaServer\keystore.ks"
keystorePass="password"
/>
--> Delete this line from the file

```

デフォルトでは、この Connector Element はコメント化されています。Element の直前と直後にある行を削除すると、Element がアクティブになります。

ファイルに加える変更は、次のとおりです。

- ポート 8443 上で HTTPS を使用するようサーバーを設定する
- 鍵ストア項目を使用して、サーバー証明書を格納する鍵ストアを識別する

変更を加えた後、ファイルを保存し、サーバーを再始動してください。

注: server.xml ファイルを変更するときは、注意してください。誤って編集すると、システムの機能が完全に失われる可能性があります。編集する前に、ファイルのバックアップを作成してください。

HTTPS の構成の詳細と、その他の構成方法については、Tomcat のユーザー文書を参照してください。

機密保護

Rational DOORS Web Access のデフォルトのデプロイメントでは、各サーバー・コンポーネント間で、セキュアでない通信が行われます。

システムは、ブラウザと Rational DOORS Web Access Server の間の通信を保護するために HTTPS の使用をサポートしていますが、さまざまなサーバー・サイド・コンポーネント間のセキュアな通信は、現時点ではサポートされていません。

ファイアウォールなど、一般的に認められているセキュリティー手段を使用して、通信を保護する必要があります。Web クライアントのユーザーは、通常、Rational DOORS Web Access Server ポート以外のコンポーネントに直接アクセスする必要はありません。

第 8 章 IBM Rational ソフトウェア・サポートへの連絡

セルフ・ヘルプ・リソースで問題が解決しない場合は、IBM Rational ソフトウェア・サポートに連絡して、製品の問題を解決する際の支援を受けることができます。

注: 以前からのテレロジックのお客様は、<http://support.telelogic.com/toolbar> にアクセスして、IBM Rational Telelogic Software Support ブラウザー・ツールバーをダウンロードできます。このツールバーを使用すると、IBM Rational Telelogic 製品のオンライン・リソースに簡単に移行できます。また、IBM Rational Telelogic のすべてのサポート・リソースに関する単一の参照サイトが <http://www.ibm.com/software/rational/support/telelogic/> にあります。

IBM Rational ソフトウェア・サポートに連絡するための前提条件

問題の処理を IBM Rational ソフトウェア・サポートに依頼するには、有効なパスポート・アドバンテージ® ソフトウェア保守契約が必要です。パスポート・アドバンテージは IBM の包括的なソフトウェア・ライセンスおよびソフトウェア保守 (製品のアップグレードおよび技術サポート) プログラムです。

パスポート・アドバンテージには、オンラインで <http://www.ibm.com/software/lotus/passportadvantage/howtoenroll.html> から登録できます。

- パスポート・アドバンテージの詳細については、パスポート・アドバンテージの FAQ (http://www.ibm.com/software/lotus/passportadvantage/brochures_faqs_quickguides.html) にアクセスしてください。
- さらに支援が必要な場合は、IBM 担当員にお問い合わせください。

問題の処理をオンラインで (IBM Web サイトから) IBM Rational ソフトウェア・サポートに依頼するには、さらに以下のことが必要です。

- IBM Rational ソフトウェア・サポート Web サイトの登録済みユーザーであること。登録の詳細については、<http://www.ibm.com/software/support/> にアクセスしてください。
- サービス要求ツールで、許可された呼び出し元のリストに載っていること。

問題の処理依頼

問題の処理を IBM Rational ソフトウェア・サポートに依頼するには、以下のようにします。

1. 問題がビジネスに及ぼす影響を判別します。IBM に問題を報告すると、重大度レベルを指定するよう求められます。このため、報告する問題のビジネス・インパクトを理解し、評価する必要があります。次の表を使用して、重大度レベルを判別してください。

表 3. 問題の重大度レベルの判別

| 重大度 | 説明 |
|-----|---|
| 1 | 問題には重大なビジネス・インパクトがあります。プログラムを使用できないため、業務に重大な影響を与えます。この状態では、直ちに解決策が必要です。 |
| 2 | 問題には大きなビジネス・インパクトがあります。プログラムは使用可能ですが、機能が大幅に制限されています。 |
| 3 | 問題には若干のビジネス・インパクトがあります。プログラムは使用可能ですが、比較的次要でない (業務上、重大でない) 機能を利用できません。 |
| 4 | 問題には軽微なビジネス・インパクトがあります。この問題で業務への影響はほとんどないか、問題を回避する妥当な措置を実施済みです。 |

2. 問題を記述し、背景情報を収集してください。問題を IBM に説明するときは、できるだけ具体的に記述してください。IBM ソフトウェア・サポートのスペシャリストがお客様の問題解決を効率的にお手伝いできるように、関連する背景情報をすべてお知らせください。時間を節約するため、以下の質問への回答を用意しておいてください。

- 問題が発生したときに実行していたソフトウェアのバージョンはどれですか。

正確な製品名とバージョンを判別するには、以下の該当する方法を使用します。

- IBM Installation Manager を始動し、「ファイル」>「インストール済みパッケージの表示」を選択します。パッケージ・グループを展開し、パッケージを選択してパッケージ名とバージョン番号を表示します。
- 製品を始動し、「ヘルプ」>「製品情報」をクリックして製品名とバージョン番号を表示します。
- 使用しているオペレーティング・システムとバージョン番号はどれですか (サービス・パックまたはパッチを含みます)。
- 問題の症状に関連するログ、トレース、およびメッセージがありますか。
- 問題を再現することができますか。できる場合、問題を再現するために実行した手順はどのようなものですか。
- システムに何らかの変更を加えましたか。例えば、ハードウェア、オペレーティング・システム、ネットワーキング・ソフトウェア、またはその他のシステム・コンポーネントを変更しましたか。
- 問題に対する予備手段を現在使用していますか。使用している場合、問題を報告する際に、その予備手段について説明できるよう準備しておいてください。

3. 問題の処理を IBM Rational ソフトウェア・サポートに依頼します。以下の方法で IBM Rational ソフトウェア・サポートに問題の処理依頼を行うことができます。

- オンラインの場合:

IBM Rational ソフトウェア・サポート Web サイト (<https://www.ibm.com/software/rational/support/>) にアクセスし、Rational サポート・タスク・ナビゲーターで「Open service request」をクリックします。電子的な問題報告ツールを選択し、問題報告書 (PMR) を開いて、問題をお客様自身の言葉で正確に記述します。

サービス要求を開始する方法の詳細については、<http://www.ibm.com/software/support/help.html> にアクセスしてください。

IBM Support Assistant を使用して、オンライン・サービス要求を開始することもできます。詳細については、<http://www.ibm.com/software/support/isa/faq.html> にアクセスしてください。

- 電話の場合:

お客様の国または地域での連絡先電話番号については、IBM の世界中の窓口を記した住所録 (<http://www.ibm.com/planetwide/>) にアクセスし、お客様の地域の名前をクリックします。

- IBM 担当員を通じての場合:

IBM Rational ソフトウェア・サポートにオンラインまたは電話でアクセスできない場合は、IBM 担当員にご連絡ください。必要であれば、IBM 担当員がお客様の代わりにサービス要求を開始できます。各国での完全な連絡先情報は、<http://www.ibm.com/planetwide/> に記載されています。

処理依頼された問題がソフトウェアの不良や文書の欠落または不正確さに関する問題である場合、IBM Rational ソフトウェア・サポートは、プログラム診断依頼書 (APAR) を作成します。APAR には、その問題が詳細に記載されます。IBM Rational ソフトウェア・サポートは、可能な場合には常に、APAR が解決されてフィックスが配布されるまで、インプリメントできる予備手段を提供します。また、IBM では解決済みの APAR を IBM Rational ソフトウェア・サポート Web サイトに毎日公開し、同じ問題を経験する他のユーザーが同じ解決策を利用できるようにしています。

IBM Rational ソフトウェアに関するその他の情報

Rational ソフトウェア製品のニュース、イベント、およびその他の情報については、IBM Rational ソフトウェアの Web サイトにアクセスしてください。

この Web サイトには、<http://www.ibm.com/software/rational/> でアクセスできます。

特記事項

© Copyright IBM Corporation 2009.

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711

東京都港区六本木 3-2-12

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存する "まま" の状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

*Intellectual Property Dept. for Rational Software
IBM Corporation
1 Rogers Street
Cambridge, MA 02142
U.S.A.*

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

商標

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、Rational、DOORS、IBM Rational License Server TL は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。これらおよび他の IBM 商標に、この情報の最初に現れる個所で商標表示 (® または ™) が付されている場合、これらの表示は、この情報が公開された時点で、米国において、IBM が所有する登録商標またはコモン・ロー上の商標であることを示しています。このような商標は、その他の国においても登録商標またはコモン・ロー上の商標である可能性があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.html の「Copyright and trademark information」をご覧ください。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Solaris は Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

インストール
準備 2
Linux 11
Solaris 7
Windows 5
インストールの準備 2
ウェルカム画面
構成 15

[カ行]

鍵ストア 26
コンポーネントの通信
セットアップ 15

[ハ行]

ブローカー
概要 1
ポートの構成 25
activemq.xml 25
Linux でのアンインストール 24
Linux での始動 21
Linux での停止 23
Solaris でのアンインストール 24
Solaris でのインストール 9, 12
Solaris での始動 21
Solaris での停止 23
Windows でのアンインストール 23
Windows でのインストール 5
Windows での始動 21
Windows での停止 23

[ラ行]

ライセンス・オプション 1
ログオフ 22
ログオン 22

A

ActiveMQ 1
activemq.xml 25

C

Connector エlement 26

D

DCN
コマンド 18

F

festival-log4j.xml 15
festival.xml
概要 15
ブローカー・ポートの構成 25
変更 17
例 16

I

IBM お客様サポート 29
Interoperation Server
複数の実行 18
Linux でのアンインストール 24
Linux でのインストール 11
Linux での実行 21
Linux での停止 23
Solaris でのアンインストール 24
Solaris でのインストール 7
Solaris での実行 21
Solaris での停止 23
Windows でのアンインストール 23
Windows でのインストール 5
Windows での実行 21
Windows での停止 23

L

Linux でのインストール 9, 12

R

Rational DOORS Database Server
概要 1

Rational DOORS Database Server (続き)

Linux でのアンインストール 24
Linux でのインストール 12
Linux での始動 21
Linux での停止 23
Solaris でのアンインストール 24
Solaris でのインストール 8
Solaris での始動 21
Solaris での停止 23
Windows でのアンインストール 23
Windows でのインストール 5
Windows での始動 21
Windows での停止 23

Rational DOORS Web Access

コンポーネント 1
コンポーネントの通信のセットアップ
15
紹介 1

Rational DOORS Web Access Server

概要 1
セットアップ 15
ポートの構成 25
HTTPS の構成 26
Linux でのアンインストール 24
Linux でのインストール 9, 12
Linux での始動 21
Linux での停止 23
server.xml 25, 26
Solaris でのアンインストール 24
Solaris でのインストール 9, 12
Solaris での始動 21
Solaris での停止 23
Windows でのアンインストール 23
Windows でのインストール 5
Windows での始動 21
Windows での停止 23

Redirector Service

構成 19
紹介 19

S

server.xml
DA Server ポートの構成 25
HTTPS の構成 26
Solaris でのインストール 9, 12

T

Tomcat 1

U

Universal Resource Name

識別 15

URN

識別 15



Printed in Japan